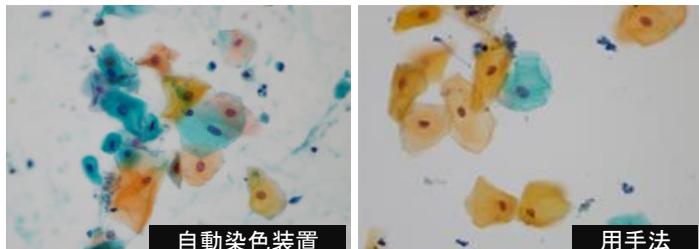




## ◎ 細胞診関連のお知らせ

### 〈機器の導入について〉

細胞診自動染色装置および自動封入装置が導入されました。これまで用手法で行っていたパパニコロウ染色が封入まで自動で行われ、業務が効率化されました。機械化により、人為的ミスの軽減も見込まれ、品質と精度管理の向上も期待されます。また、キシレンへの暴露も軽減され、さらに安全な作業環境が確保されました。



自動染色装置 VS 用手法 染色性の比較画像

### 〈細胞診検体の提出について〉

受付時間：8:30～17:15（休日は15:00）

連絡先：2257（内線）

**※原則時間外の提出は受付しておりません。**

時間外の検体提出時は事前に電話連絡をお願いします。連絡が取れない場合は冷蔵保存し、翌日の受付時間内に提出してください。

※胆汁・膀胱・髄液などの細胞診検体は細胞が変性しやすいため検査不能となる可能があります。採取後は速やかに提出をお願いいたします。直ちに提出できない場合も書き時間内に提出をお願いします。

### 〈セルブロックの検体について〉

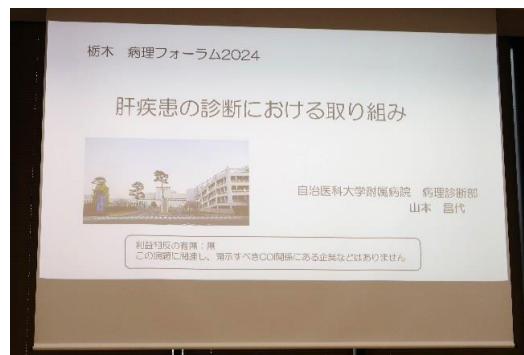
セルブロック法は検体中の細胞を集めたものを、パラフィンで包埋して細胞集塊や組織片を観察することで、細胞の構築や組織型、免疫組織化学的特徴などを詳細に分析できる手技です。そのため、検体に細胞が含まれていない場合はセルブロックを作製することはできません。

セルブロック作製に必要な検体量は検体中にどれだけ細胞が含まれているかに依存します。そのため、**脳脊髄液や眼科領域の検体のように、採取される細胞が少ない検体でのセルブロック作製は困難となります。**ただし、場合によっては作製が可能な場合もありますので、必要な場合にはご相談ください。

※セルブロックの作製には時間がかかります。遅くとも**14時までに**提出してください。

## ◎ 栃木病理フォーラム 2024

7月6日 宇都宮ライトキューブに於いて、栃木病理フォーラム2024が開催されました。病理診断部から、福嶋敬宜先生（オープニング挨拶、座長）、山本昌代技師（演題『肝疾患の診断における取り組み』）が登壇、発表を行いました。



発行元：病理診断部（内線2257）

編集：岡田啓祐、小室海翔、佐々木玲奈、宮澤夏帆、飛田野清美、福嶋敬宜